

ありがとう投信株式会社
Arigato Asset Management Inc.

月次レポート

基準日:2007年12月28日

『ありがとうファンド』

(愛称:「ファンドの宝石箱」)

追加型株式投資信託/ファンド・オブ・ファンズ
分配金再投資専用

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第304号 (社)投資信託協会会員



2008年が始まりました。

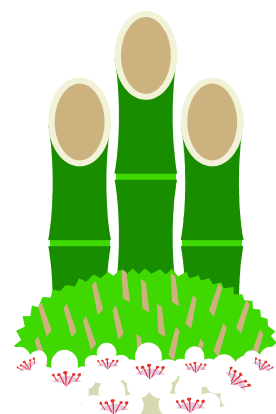
年の区切りというのは便利なもので、嫌なことがあっても「あれは去年までのこと」と忘れる手助けをしてくれます。「長期投資」の世界では一年一年の変動に一喜一憂はしませんが、それでも昨年のように日本の株式市場が低迷が続けた後は、気持ちの切り替えに新しい年を迎えるのは丁度良いタイミングとなりました。新しい年の最初のレポートでは、さまざまに市場を動かし話題に上った「要因」について少し考えてみたいと思います。

「不況」は大歓迎?

昨年の後半から金融市場の話題の「根っこ」にあるポイントは「アメリカの不況」です。サブプライム問題をきっかけに「住宅不況」更には「金融不況」の声が大きくなって世界最大の経済圏であるアメリカ経済全体に対する不安が大きくなりました。アメリカの経済番組を見ていると「アメリカ経済が不況に突入する確率は何パーセントか?」という問いかけを盛んに行っています。様々な「専門家」がそれに答えて40%とか50%以上とか回答しています。しかし、考えてみるとこの答えが30%でも50%以上でも長期投資の観点からは余り意味がないことです。アメリカは人口も伸びています。確かに外国からの借金をたくさん抱えてはいますが、多くの投資家が継続して投資をしようとするだけの「魅力」を持った国です。長期的にみれば一時的な不況になるかならないかはそんなに大問題ではありません。

むしろ「不況(あるいはそれに近い状態)になったほうが良い」面もあります。例えば「サブプライムローン」がもてはやされていた「好況」の時には「収入との見合いでどうやっても住宅ローンを返せない人」にもどんどんローンを貸し出していました。これは社会的にも不健全なことです。

こうした行動も「自由な経済行為」である限りは禁止することは出来ません。好況が行き過ぎてしまうと社会のあちこちにおかしな現象がどんどん出てきます。日本の場合にも80年代の「バブル景気」の時に様々なおかしな経済行為が湧き出てきました。不況はそれらの行き過ぎを訂正する機会です。大事なことは極端な行き過ぎや極端な訂正をしないことです。今のアメリカが目指しているのはそういう「適正な訂正」ですから、仮に不況が来ても全く問題ありません。むしろ「不況という鍛錬の場」をくぐることで経済が筋肉質に生まれ変わって強くなります。すなわち長期投資の観点からは大歓迎です。オマケに不況だ!と皆が騒げば価値ある企業の株式も投売りされます。それらをじっくりと買えるのですから更に良いこととなります。「不況」は大歓迎です。



「インフレであり」「インフレでない」

かつて「失われた10年」という言葉が盛んに言われた時期がありました。日本のバブル経済が破裂して長い経済停滞に見舞われた時代を指しています。それ以来日本経済は長く「デフレ」に苦しんできました。しかし今や「値段」に関する話題はデフレから「値上げ」に変わりました。皆さんが実感されているように特に食料品やガソリン、灯油などのエネルギー価格が上がってきています。ところがすべての値段が上がっているかというとそうでもありません。いわゆる全面的なインフレにはなっていません。肝心なのは給料も上がってきてはいないということです。

こういう状況を「運用」という観点から見るとどうなるでしょうか?まず、給料が増えないのに生活にどうしても必要な食料やエネルギー価格が上がってきますから、運用で生活を支える努力が今まで以上に

当資料は、ありがとう投信株式会社が『ありがとうファンド』に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。当ファンドの受益証券の取得申込みの際には、必ず内容を目論見書でご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。当レポートに記載されている事項につきましては、作成時点または過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。当レポートは、各種の信頼性が高いと判断した情報に基づいて作成しており、正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通しは作成日時点での当社の判断を反映したものであり、将来の市場環境などの変動などを保証するものではなく、将来予告なしに変更されることがあります。

大事になります。預金金利も上がってくるかもしれませんがインフレを越えて高い金利を銀行は付けてはくれません。今の日本の個人金融資産は全体では 50%以上が預貯金です。これではインフレに勝つことは難しいでしょう。

一方「運用をする」立場からは決して悪い状況ではありません。インフレが非常に高くなって手に負えない状況になっていない限りは緩やかなインフレの状態は株式投資には良好な状態です。株式投資を「企業のオーナーになる」と捉えると、実物を所有し値上がりに対処できる能力を持った企業の「価値」を「株式」という形で持つことは「インフレ」に対する備えとしては優れた方法です。もう一つ大事なことは「選別」という点です。物の値上がりは企業にとって「コスト」が上がることです。すべてのものが上がっていれば「コスト」を価格に転嫁することも受け入れてもらいやすいかもしれませんが。しかし今のように「値上がりするもの」と「値上がりしないもの」が併存する状況では「企業の力」が問われます。すなわち事業の価値を高められる企業とそうでない企業の差がつきやすくなります。「選別する目」が問われることとなります。

「新興国」投資の源流

もう一つここ数年の「運用」の世界の話題の中心になってきた「新興国」について考えてみましょう。ここで「投資」の観点を離れて世界の中での「新興国」の位置づけを考えると、現在の大きな変化の源は約 20 年前の「ベルリンの壁の崩壊」までたどり着きます。

資本主義陣営と社会主義陣営に分かれて、互いの持つ価値を交換できなかった国々が経済交流できるようになりました。労働力の豊富な国は安い労働を提供し、消費の盛んな国は今まで買わなかった国からも物を買うようになりました。それが世界規模の経済発展につながったのです。経済でみるとこの状況の恩恵を最も受けたのはアメリカだったと思います。それまで経済が活発になる度に「インフレ」に苦しめられていたのが開放されました。その為に景気の良い状態を長続きさせることが可能になったのです。先ほど申し上げたように少しは「不況の薬」が必要になるくらいに「良い状態に慣れきってしまう」ことを可能にしたのも

「新興国経済」が世界経済の一部として定着したからです。同じように、2 番目に申し上げた「値上がりするもの」と「値上がりしないもの」の併存状態を作るのも「新興国経済」なしではありえませんでした。給料が上がりにくい状態を作ったのも「同じ仕事をもっと安い給料で行う人」がいることで起こっている現象です。つまりここまで申し上げたことはどこかで皆つながっている訳です。これは正に「大きな動き」であり、「大きな変化」です。そしてこの動きは 20 年にわたる時間をかけて動いてきたということです。

新興国について「運用」の観点から申し上げますと 2 つの点が大事だと思います。一つは投資の対象としては複数の国があって分散されているので「一極集中」的な状況になりにくいことです。投資にはしばしば特定の投資対象に絞られる現象が起きますが、今の新興国投資には広がりがあります。もう一点は先ほど申し上げた 20 年という時間のながれです。これをどう評価するのか？というのが難しいということは考えておいたほうが良いと思います。

「青い鳥」はどこに？

投資という観点では「日本の投資家が日本企業の株を買わない」という現象が最近顕著です。背景としては日本の企業を見る目が極めて厳しくなっていることがあるでしょう。ここでも先ほど申し上げた「選別」がキーワードになるのではないのでしょうか？メーテルリンクの「青い鳥」では遠くまで探しに行った青い鳥は実は自分の近くにいました。しかし全ての鳥が「青い鳥」ではありません。これまで申し上げた「大きな流れ」は「厳しい流れ」でもあります。投資をするほうも投資を受けるほうも、その事実は変わりないと思います。

ありがとう投信株式会社 代表取締役 村山 甲三郎

当資料は、ありがとう投信株式会社が『ありがとうファンド』に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。当ファンドの受益証券の取得申込みの際には、必ず内容を目論見書でご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。当レポートに記載されている事項につきましては、作成時点または過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。当レポートは、各種の信頼性が高いと判断した情報に基づいて作成しており、正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通しは作成日時点での当社の判断を反映したものであり、将来の市場環境などの変動などを保証するものではなく、将来予告なしに変更されることがあります。

新年のご挨拶

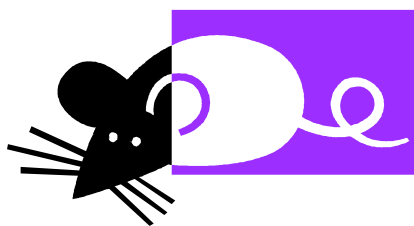
2008年1月4日に弊社ホームページに掲載の原稿を転載しております。

皆様、新年明けましておめでとうございます。

今年、「ありがとうファンド」は4度目の正月を迎えました。年頭に当たっては、過ぎた一年を振り返り、新しい年を思う…というのが定石でしょうが、自分の場合ほとんど過ぎた一年は振り返りません。むしろこれから一年、そして更に先がどうなるだろうか…ということに興味津々です。そうは云いながら、余り先のことばかり申し上げるのも、反省がなく上滑りになります。そこで、丁度一年前にこの欄で申し上げた「天上大風」を省みたいと思います。



「ありがとうファンド」の去年一年の成績を見る限り、大きな風を背に受けていたとはとても思えません。ファンドを支えてくださった皆様には申し訳ない限りです。そんな想いで一杯だった昨年末、テレビで「プロフェッショナル」という番組の総集編を見ました。この番組は様々な分野のすぐれたプロフェッショナルの人々を取り上げてきました。総集編は今まで登場した人々の、人生や仕事に込めた思いをあらゆる様々な「言葉」をまとめていました。その中で視聴者の反響が最も多かった言葉は将棋プロの羽生善治さんのものでした。「才能とは努力を継続できる力」番組に寄せられた視聴者のコメントを聞くと、ポイントは「才能」ではなく「継続」することでした。「継続することの大切さを教えられた」と皆さん言っていました。先ほどの「大風」で言えば、天の遙かかなたにゆったりと吹いている風は、そんなに簡単に止みません。方向も変えません。一旦吹き出したらゆったりと継続して吹いてゆきます。



私たちの歩む道も同じことです。地上を吹く小さな風をみて、風の向きや勢いを論じてもそんな小さな風は直ぐにコロコロ向きが変わります。天上を吹く大風だからこそ変わらずに吹いてゆくのです。我々はその風を信じて努力を継続することが大事だと思います。4年目を迎えた「ありがとうファンド」は更に次の進化を目指します。昨年暮れには新しい組入れファンドが加わりました(TMA長期投資ファンド<適格機関投資家限定>)。今年は更に多くのファンドが加わる予定です。本当にすぐれたファンドを集めた「ファンドの宝石箱」を更に輝くものにするために、今年も精一杯の努力を継続して参ります。どうか皆様の変わらないご支援を、よろしくお願い申し上げます。

ありがとう投信株式会社 村山 甲三郎

当資料は、ありがとう投信株式会社が『ありがとうファンド』に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。当ファンドの受益証券の取得申込みの際には、必ず内容を目論見書でご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。当レポートに記載されている事項につきましては、作成時点または過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。当レポートは、各種の信頼性が高いと判断した情報に基づいて作成しており、正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通しは作成日時点での当社の判断を反映したものであり、将来の市場環境などの変動などを保証するものではなく、将来予告なしに変更されることがあります。

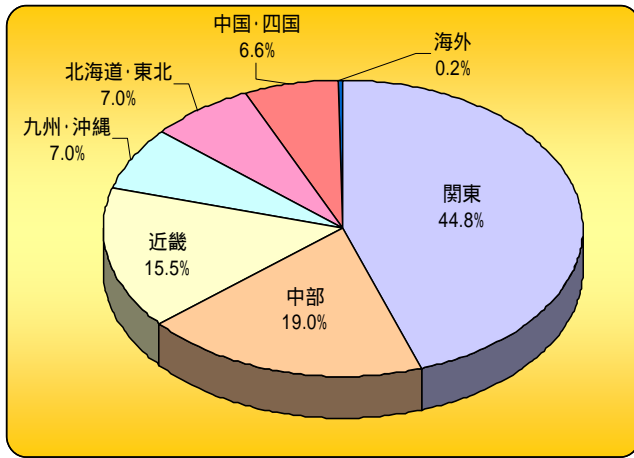
< 業務管理部コーナー >

主に当コーナーは、お客様よりいただきました「ご質問とお答え」のご紹介、および弊社からの連絡事項等を掲載します。

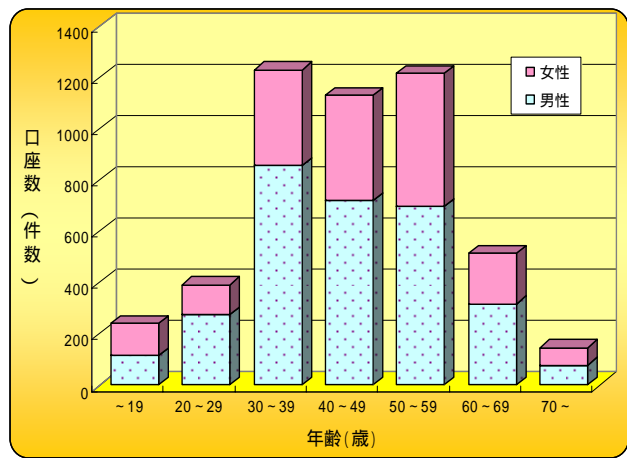
【口座開設状況等】 (12月28日現在)

口座開設件数 (件)		投資家別比率	定期購入 申込件数	定期購入 購入申込率	定期購入 月次引落平均 (円)
個人	4,870	99.3%	2,651	54.4%	32,471
前月比増減	+35		+2		
法人	35	0.7%	14	40.0%	157,142
前月比増減	0		0		
合計	4,905	100.0%	2,665	54.3%	
前月比増加	35		2		

< 地域別口座開設比率 >



< 年齢別口座開設数 >



【「定期定額購入サービス」 今後のスケジュール】

項目 引落対象月	新規申込・ 引落口座変更 < 締切日 >	引落金額変更 ・取引中止 < 締切日 >	引落日 (お客様の口座より)	振替日 (弊社への入金日)	約定日 (ファンド購入日)
平成 20 年 2 月	受付終了	1 月 25 日 (金)	2 月 6 日 (水)	2 月 15 日 (金)	2 月 19 日 (火)
平成 20 年 3 月	2 月 5 日 (火)	2 月 25 日 (月)	3 月 6 日 (木)	3 月 14 日 (金)	3 月 18 日 (火)

お取引内容のご報告は、「約定日」の翌営業日に「お取引報告書」をご送付致します。
 新規申込書・各種変更届が上記指定の締切日に間に合わない場合、次回対象月の受付扱いとなりますのでご了承下さい。
 新規に当サービスを申込みされる方、及び現在のご登録内容の変更をご希望される方は、弊社までご連絡ください。

【月次レポートの印刷に関して】

月次レポートを郵送でお受取のお客様にご連絡申し上げます。毎月新規のお客様も加わり、月次レポートの印刷部数も増えてまいりました。それに伴い、時々、一部印刷が不明瞭なものや、印刷がされていないページが封入される場合がございます。これは印刷機の性能によるものでございます。極力注意をして参りますが、万が一、お届けの月次レポートに不備がございましたら、お手数をお掛けいたしますが弊社までご一報ください。改めて発送させていただきます。
 また、月次レポートの受取方法でございますが、紙資源節約のため、インターネットをご利用されているお客様にはメールでの受取をお願いしております。ご協力をいただける方は弊社業務管理部までお申し付けください。なお、変更のご連絡はインターネット経由でも承っております。

当資料は、ありがとう投信株式会社が『ありがとうファンド』に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。当ファンドの受益証券の取得申込みの際には、必ず内容を目論見書でご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。当レポートに記載されている事項につきましては、作成時点または過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。当レポートは、各種の信頼性が高いと判断した情報に基づいて作成しており、正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通しは作成日時時点での当社の判断を反映したものであり、将来の市場環境などの変動などを保証するものではなく、将来予告なしに変更されることがあります。

あなたの街で「ありがとう会」開催!!

.....全国各地で“ありがとう会”を開催致します!.....

“お客様の将来の「資産形成」のお手伝いをさせていただく”ことを目的としております弊社では、ファンドを通してお客様との密接な関係を築いていくために独自のセミナー“ありがとう会”を開催しております。

“ありがとう会”は特にテーマを設けず、気楽な雰囲気で色々な話やご意見ご質問をいただきながら弊社とお客様、またお客様同士のコミュニケーションの取れる場として、これからも一人でも多くのお客様とご一緒できるよう、全国各地で開催してまいります。

「ありがとう会」が少し変わります。

ありがとう投信も 4 年目を迎えました。常に皆様によりお役に立つように「改革」に努めておりますが、「ありがとう会」についてもより良いものにしようと企画しております。まだ詳細は決まっておりますませんが、次のような「ありがとう会」を増やしてゆこうと思っております。

- ・ ありがとう投信は税理士さんのグループが設立しました。税理士さんたちは、当然、税金や年金あるいは社会保険などの「お金の専門家集団」です。人生について廻る相続などの手続きにも経験豊富です。そんな税理士さんですが多くの人には余りなじみがありません。「ありがとう会」では税理士さんにも加わっていただいて皆さんの身の回りの疑問に気軽にご質問いただけるような機会を作ります。
- ・ 皆さん、ファンド運用のファンドマネジャーに会ったことがありますか? どんな人がどんなことを考えてどんな風に運用しているのか?
「ありがとう会」では、組入れファンドのファンドマネジャーの方をお招きして、皆さんからご質問を受けたり、運用の世界の話をしてもらいます。

新しいスタイルの「ありがとう会」を今年から始めます。皆さんぜひご参加下さい。



.....“ありがとう会”開催ご希望のお客様、ご連絡お待ちしております!.....

弊社の“ありがとう会”は、あなたの街へお伺いして開催いたしております。

“ありがとう会”を開催ご希望の方は弊社までお気軽にご連絡ください。なお、スケジュールの関係上、今すぐのご期待に添えない場合がございます。あらかじめご了承ください。

ありがとう会お申込先

ありがとう投信株式会社 業務管理部

TEL : 03-5807-9710 FAX : 03-5818-6442 E-mail:web@39asset.co.jp

当資料は、ありがとう投信株式会社が『ありがとうファンド』に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。当ファンドの受益証券の取得申込みの際には、必ず内容を目録見書でご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。当レポートに記載されている事項につきましては、作成時点または過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。当レポートは、各種の信頼性が高いと判断した情報に基づいて作成しており、正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通しは作成日時点での当社の判断を反映したものであり、将来の市場環境などの変動などを保証するものではなく、将来予告なしに変更されることがあります。

『ありがとうファンド』の概要

～詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください

➤ 商品分類	追加型株式投資信託 / ファンド・オブ・ファンズ
➤ 信託期間	無期限
➤ 決算と収益分配	毎年8月31日（休業日の場合は翌営業日）
➤ お申込単位	1万円以上1円単位
➤ お申込価額	取得申込受付日の翌々営業日の基準価額
➤ ご解約単位	1円以上1円単位
➤ ご解約価額	解約請求受付日の翌々営業日の基準価額
➤ 委託会社 （販売会社）	ありがとう投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第304号（社）投資信託協会会員
➤ 受託会社	日興シティ信託銀行株式会社 登録金融機関 関東財務局長（登金）第25号（社）日本証券業協会会員

『ありがとうファンド』にかかるリスク

主なリスク 「価格変動リスク」「流動性リスク」「ビジネスリスク」「為替リスク」「カントリーリスク」「ファンド資産の流出によるリスク」

当ファンドは、ファンドオブファンズであり、国内外の投資信託証券などの値動きのある証券に投資します。また、外貨建て投資信託証券に投資する場合には為替の変動もあります。なお、投資信託証券の組入証券の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、価額が下落し、損失を被ることがあります。

したがって、ご投資家の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、**損失を被り、投資元本が割り込むことがあります。**ファンドに投資することに伴うリスクはお客様のご負担となりますしファンドへの投資による損益も全てお客様に帰属します。また**元本及び利息の保証はなく預金保険の対象でもありません。**

『ありがとうファンド』にかかる手数料等

～詳細は投資信託説明書（交付目論見書）の「費用・税金」をご覧ください

➤ 申込手数料	お申込にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。
➤ 換金手数料	換金（解約）手数料はありません。
➤ 信託財産留保額	信託財産留保額ははありません。
➤ 信託報酬	ファンドの純資産総額に年0.945%（税抜年0.9%）の率を乗じて得た額とします。 [実質的な信託報酬 信託財産の純資産総額に対して年1.6% ± 0.3%（概算）] 当ファンドは他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。
➤ その他の費用等	当ファンドに組み入れるファンドを売買する際に発生する売買委託手数料およびこれにかかる消費税相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。 実費の額は、今後組み入れファンドの追加や変更があった場合、変動してくるものであるため事前に料率、上限額等を表示することができません。

当資料は、ありがとう投信株式会社が『ありがとうファンド』に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。当ファンドの受益証券の取得申込みの際には、必ず内容を目論見書でご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。当レポートに記載されている事項につきましては、作成時点または過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。当レポートは、各種の信頼性が高いと判断した情報に基づいて作成しており、正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通しは作成日時点での当社の判断を反映したものであり、将来の市場環境などの変動などを保証するものではなく、将来予告なしに変更されることがあります。